【ウトロ地域】

地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み

●鮭のまちPR

(1) 水産業を核とした地域活性化の取り組み(地域の目指すべき姿) (Plan) 地域 MV における取組 の位置付け

【地域の目指す姿】

- ・漁業の観光資源化プログラム
- ・連携基盤整備と利活用プログラム

【主な取組み】

- ・ウトロ鮭テラス(人工地盤)と漁業の観光資源化
- ・鮭の地域ブランド化



現状における取組実 施の背景

当地域は鮭鱒が漁獲の 8 割を占めるが、近年は漁獲が減少傾向にあるため、資源の安定化とともに、付加価値の向上に活路を見出そうとし ている。

知床の観光資源は、自然景観や体験、ウトロの温泉が挙げられる。一方で斜里町は江戸時代からの鮭の産地で、漁獲量が日本一であるが、観 光資源として生かされていない。

既存のストックとして、水揚見学が可能な漁港、遡上観察できる河川、ウトロのホテル街、当地で活躍する自然ガイド、知床の知名度があ る。これらを活用して漁港と鮭の観光資源化、さらには鮭の地域ブランド化を目指している。

効果

取組により期待する 目標: 日本一の旬を味わう!知床鮭ウィーク協力ホテル数 4軒

メディアへの露出 10回

ガイド事業者のメニュー化 10 社 トークイベント参加者 450名

(2) 取組内容·実施体制 (Do)

取組内容、方法、手 順、実施体制

・ウトロ鮭テラス大掃除、勉強会(令和5年9月7日)

美化と観光資源化を目的に開催し、大掃除48名、勉強会23名の参加であった。

・鮭を知り、鮭から学ぶ。知床鮭ウィークの開催(令和5年10月1日から10月10日まで:これまでより期間を短縮することで濃度を増した) 期間中の毎日、4軒の大型ホテルへ銀毛の鮭を2尾ずつ無償提供した。(漁業側で費用負担)

ホテル側では、提供された鮭を展示や各種料理に活用した。

好評となっている鮭のトークショーについては、演者5人により、場所を変えて毎日3回開催した。

10日間で計30回、636名の参加があり、リピーターも現れるなど、大きな手ごたえがあった。

鮭テラスでのイベント需要調査のため、おにぎりキッチンカーの試験出店を行った。

10月7、9日の予定であったが、7日は悪天候のため中止し、9日は出店できた。

天候も良く、水揚げ開始とともに7時から販売開始し、約2時間で鮭やイクラのおにぎり80個を完売し、賑わい創出の効果が確認できた。

·SHIRETOKO SALMON STUDY (令和5年9月23日)

参加者20名 鮭テラスやペレケ川を歩きながら解説付きで見学した後に、鮭づくしのブランチを楽しんだ。 観光客のほか、地元在住の方のリピーター参加もあり、鮭への理解につなげることが出来た。

• SDGs遡上見学会

テレワーカー・ワーケーショナーを対象に、鮭の水揚げや河川環境が改善されたところなどを解説した。 6回の開催で45名の参加があり、長期滞在者への理解につなげることが出来た。

• その他

ホームページでは、運用水揚げの予定をカレンダー形式によるリアルタイム更新、鮭料理が食べられる飲食店の情報等を掲載した。 ウトロ鮭テラス案内看板の管理、知床鮭等PR冊子作製等を行い、活用を行った。

給食食材として、9月5日に鱒、10月6日に鮭を町内の小中学校等に約1,200食、ウトロ漁協、斜里第一漁協の両定置部会より提供した。 ※実施体制についてはマリンビジョン協議会メンバーに加えてホテル事業者。

【取組の様子】



関連資料

鮭テラス大掃除



鮭テラス勉強会



鮭のトークショー

田口挿の法子中芸	ら評価(Check)
果目標の達成度評 	・メディアでの取り上げ
	テレビ 2 件(全道、管内)、ラジオ 1 件、新聞 15 件、雑誌 1 件
	・ガイド事業化
	ウトロ鮭テラス見学をメニューに盛り込んでいるガイド事業者 11 社
	・鮭のトークイベント
da F	30 回の開催で 636 名参加
省点	・知床鮭ウイークでの鮭提供については、時化や休日の調整に手間取った。
	・知床鮭ウイーク中の鮭のトークイベントは好評であったが、演者の拘束時間が午後4時から9時までと長時間であり、負担が大きかった。
	・キッチンカーの効果は大きかったが、天候による中止があった。
	・鮭テラス大掃除、勉強会は季節のイベントとして根付きつつある。
4) 取組の改善措置	(Action)
組内容の改善点	・知床鮭ウィークについては漁業関係者とホテル関係者での意識の共通化を図り、お互いにメリットのある取り組みに成長させる。
	・ウトロ鮭テラス勉強会:漁業と観光の双方にメリットの感じられ、地域の人に親しまれるイベントに成長させたい。
	・キッチンカーについては、天候や曜日による影響を確認していきたい。なお、扱う食材は知床鮭に関連したものに限りたい。
知の実体に立また	
組の実施に必要な の	・人工地盤(鮭テラス)については手摺が若干高く、女性や子供には見学しにくいことから、安全に配慮したうえでスリット化などされるとあ
• ,	りがたい。
	・PR資材製作や事業運営、プロモーションのための資金。
	・効果的なプロモーションの実施。





鮭のトークショー





鮭テラスでのキッチンカー試行

●サケ・カラフトマス自然産卵環境保全拡大

	:した地域活性化の取り組み(地域の目指すべき姿)(Plan)		関連資料
地域 MV における 取組の位置付け	【地域の目指す姿】 ・漁業生産増大 ・海域や河川の環境保全と自然産卵環境の再生 【主な取組み】	取組場所	【取組の様子】
	・サケマス自然産卵調査 ・魚道清掃 ・可搬魚道試験		
組実施の背景	当地域はサケ・カラフトマスが漁獲の8割を占めるが、近年は漁獲が減少傾研究者等からは、長期的なサケ・カラフトマス資源の底上げと安定化のため重要と指摘されている。 このことから、産卵状況の把握、および産卵環境の保全や拡大に向けた取り	には、ふ化放流事業の強化に加えて、自然産卵環境の保全と拡大も	
取組により期待 する効果	・自然産卵資源の増大・資源構造の安定化・遺伝的健全性の確保・ふ化放流事業の安定化		魚道清掃
(2) 取組内容·男	E施体制 (Do)		
取組内容、方法、手順、実施体制	 サケマス自然産卵調査 漁協青年部や漁協職員による現地踏査による自然産卵状況の把握、遡 実施した。 可搬魚道試験 香川高専と協力して、安価で迅速に設置できる可搬魚道の開発と試験を 魚道清掃 漁業青年部や漁協職員による奥蘂別川の魚道群の清掃を行った。 		自然産卵調査

(3) 効果項目に対	すする評価(Check)	関連資料
効果目標の達成 度評価	・サケマス自然産卵調査:8月から12月の13日で7河川で実施し、現状把握が進んだ。 ・可搬魚道試験: サケが支障なく遡上できることが確認できた。設置の容易性を高めることができた。 ・魚道清掃:奥蘂別川の魚道群を清掃し、遡上環境を整えた。	
反省点	・サケマス自然産卵調査:釣りの影響や資源付加への貢献状況を明らかにする必要がある。 ・魚道清掃:2 河川を 1 年おきに清掃しているが、1 年の間に詰まっている状況もある。	
(4) 取組の改善		
取組内容の改善点	・可搬魚道の実用化に向け、試験を継続していく。 ・漁業関係者による協議により、今後の遡上障害等解消に向けた優先順位を検討し、改善作業や管理者への要請等を行っていく。	海別川可搬魚道試験
取組の実施に必要なもの	 ・遡上障害解消のための安定財源 ・可搬魚道等の技術の蓄積 ・密漁防止に向けた取り組み ・釣り対策 	シマトツカリ川可搬魚道試験

●衛生管理の取り組み

●衛生管理の取り組み					
	とした地域活性化の取り組み(地域の目指すべき姿)(Plan)		関連資料		
地域 MV における	【地域の目指す姿】	取組場所	【取組の様子】		
取組の位置付け	資源を有効に活用する取組				
		A STATE OF THE STA			
	【主な取組み】				
	・衛生管理エリアー斉清掃	- h			
	・衛生管理マニュアル運用		Y-1		
		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			
T日 小上 ノー ナンノ上 フ 田豆			Secretary of the secret		
現状における取 組実施の背景	平成 28 年に供用開始したウトロ漁港の人工地盤当施設について、ハード施設を	有効に活用するため、ソフト面では、衛生管理マニュアルに基			
他大心切有泉	づいた作業や一斉清掃等により衛生管理体制の向上し、競争力を強化する。				
取組により期待	・衛生状態の向上				
する効果	・衛生管理体制の維持				
	・施設利用者の意識向上				
	・心政利用名の息戦内工				
(2) 取組内容・3	 実施体制(Do)				
取組内容、方法、					
手順、実施体制	・ウトロ漁港衛生管理エリアー斉清掃:令和5年4月13日、7月27日、9月7日				
	・衛生管理体制の現地確認 : 令和5年9月7日ウトロ漁港				
	・衛生管理講習会:令和6年2月開催予定				
	・衛生管理エリアの入り口に、来訪者用の長靴と帽子を備え付け、管理を行った	- <u>-</u>			
	相工自建工プグのパグロに、水助自用の民権と指すと構た行が、自建と行うが	-0	105		
			124-93		
			150-160		
			The state of the s		

(3) 効果項目に対	対する評価(Check)	関連資料
効果目標の達成	・一斉清掃の参加者:2 回実施して延べ 60 名	
度評価	・衛生管理体制の確認結果:良好	X-7
反省点	・越波対策の大型土嚢から土砂が漏れ、路面が汚染されることがあった。	
(4) 取組の改善持		
取組内容の改善点	・令和6年度については春、夏、秋の3回の清掃を実施する。	
取組の実施に必 要なもの	用地の水溜まりや、岸壁の不陸の改善	